

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立住吉小学校

1 自己評価書

教育目標	住吉を愛し、夢を持ってたくましく生きる児童の育成					
基本方針	コミュニティ・スクールを推進し、地域の学校支援体制を構築しながら「知」「徳」「体」のバランスのとれた子どもを育成					
本年度 重点目標	1 コミュニティ・スクールの推進    2 基礎・基本の定着と活学力の向上を目指した確かな学力の育成 3 一人一人を見つめる生徒指導の充実と人権教育の推進    4 健康でたくましい心身の育成 5 特別支援教育の充実    6 防災・安全教育の推進					
評価 項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確 かな 学 力 の 定 着 と 向 上	①	全国学力・学習状況調査 及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい 力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進 することができた。	・分析資料の作成	B	B
			・具体的な対策の実施	B		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル 「N見方・考え方を考える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	C	B
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	B	
	③	家庭学習の充実	一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等) の活用により、個別最適な学びを推進したり学習 内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	④	読書活動の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習 の充実に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	B	
	⑤	ふるさと学習及び ESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び 調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成 や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成 に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市標準学力テストが1月に移行した。1～5年生の学力分析をどのように行うか検討する必要がある。</li> <li>・校内研修で授業改善について充実した話し合いができ、話し合いをしようとする児童の姿勢、進行の仕方、意見の広がりについて成果が出始めた。</li> <li>・宿題や朝学習時に、学習内容の定着を図るため、タブレット学習を取り入れたが、個人個人の定着や進度を見取ることができていないため、個別最適化や学習内容の定着には至っていない。</li> <li>・家庭の協力により、下学年では音読・漢字・計算などの繰り返し学習において、家庭学習の成果が出る児童が増えた。</li> <li>・読書の啓発活動が児童の読書意欲の向上に効果があった。家庭での読書や自発的な読書に繋げる取り組みが必要である。</li> <li>・地域学習の充実を図ったことにより、地域に対する愛着が深まった。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習のより効果的な実施と効果の測定を行い、既習事項の基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・家庭学習について学年ごとに目安を決め、年度当初に保護者に示したり、のびチャの意義を啓発するなど、保護者と連携した取組を強化する。</li> <li>・読み聞かせや読書の木などの読書啓発活動を継続するとともに、「親子読書」など家庭での読書を促す活動を実施する。</li> <li>・生活科や総合的な学習の時間における地域教材の開発をさらに進め、年間指導計画に位置付けて地域教材を生かした学習を実施する。</li> </ul>					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	B	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	A		
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
		いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B	B
				・児童アンケート	B	
				・教師アンケート	B	
				・児童アンケート	A	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちのよい挨拶やトイレのスリッパの整頓、言葉遣いに依然として課題がある。</li> <li>・生徒指導主事を中心として、いじめの未然防止や早期発見に迅速に取り組むことができた。</li> <li>・ハート何でも相談員やスクールソーシャルワーカー等と連携し、不登校の未然防止や状況改善に組織的に対応することができた。</li> <li>・教職員が児童の善行に気付かせる言葉掛けや児童の善行を称賛することにより、児童の自己有用感が高まった。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちのよい挨拶やトイレのスリッパの整頓、言葉遣いなどの課題に対し、全教職員の共通理解のもと根気強く指導する。</li> <li>・児童の話を傾聴し、アンケートや日記なども活用して、児童の小さな変化に早期に気付けるよう努める。</li> <li>・児童に関する情報共有を適切に行い、引き続きSSW・ハート何でも相談員・関係諸機関等と連携して不登校やいじめ未然防止・配慮を要する児童や保護者の対応にチームで取り組む。</li> <li>・特別活動において、係活動や集会活動、委員会活動を充実させるとともに、児童の頑張りやよい行いを紹介する場を設けることにより、自己有用感・自己肯定感の向上を目指す。</li> </ul>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	C	C
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C	
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	B	B
休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。		・教師アンケート	A	A	
③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた人材の中で工夫して業務改善に取り組んでいるが、依然として時間外勤務が多い。</li> <li>・時間外勤務時間の平均は80時間を下回ったが、月80時間を超えた教職員が毎月複数名あり、さらなる業務改善の手立てが必要がある。</li> <li>・放課後等の課外活動は短時間で効果的なが実施できており、良い結果が出ている。</li> <li>・スクールサポートスタッフ・用務員・学校補助員・地域学校協働活動推進員・もてころサポーターなどのサポート体制が充実している。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も会議や研修がある日を5時間授業にするなど、時数を確保しつつ、放課後、事務処理や教材研究ができる時間を生み出す。</li> <li>・保護者や地域宛配布文書のデジタル化を促進する。</li> <li>・各自が作成した教材やプリントをデータ保存し、共有する。</li> <li>・今後もスクールサポートスタッフ・用務員・学校補助員・地域学校協働活動推進員等の職員の力を積極的に活用する。</li> </ul>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	B
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	B	
			・地域アンケート	A	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
	③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
・地域アンケート			A		
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が年1回、学校運営協議会に参加することで、学校運営協議会委員と教職員の連携が密になり、連携した取組ができています。</li> <li>・地域コーディネーターを中心に、もてころサポーターや保護者など地域の力を学校運営に生かすことができた。</li> <li>・HP・学校だより・学級通信のそれぞれの役割を果たす内容での情報発信に努めた。</li> <li>・丁寧な来客・電話対応に努め、保護者や地域の方々が来校しやすい体制・雰囲気となっている。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が年1回、学校運営協議会に参加することを継続するとともに、児童の参加についても検討する。</li> <li>・もてころサポーター等、学校に協力して下さる地域の方へ、児童から直接感謝の気持ちを伝える場面を設定する。</li> <li>・来年度から導入する「つながるLINEスクール」の積極的活用を促進し、今後もタイムリーな情報発信に努める。</li> <li>・来校者に対して、引き続き明るく丁寧な対応を心掛ける。</li> </ul>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満